

というより全学生

障害学生に配慮した授業実施

についてのご案内

アビリティ支援センター（旧 障害学生支援室）

特任准教授 工藤晋平

2020年4月23日

## お読みください

新型コロナウイルス感染症の対策として遠隔授業が実施され、先生方それぞれにご苦勞のことと思います。

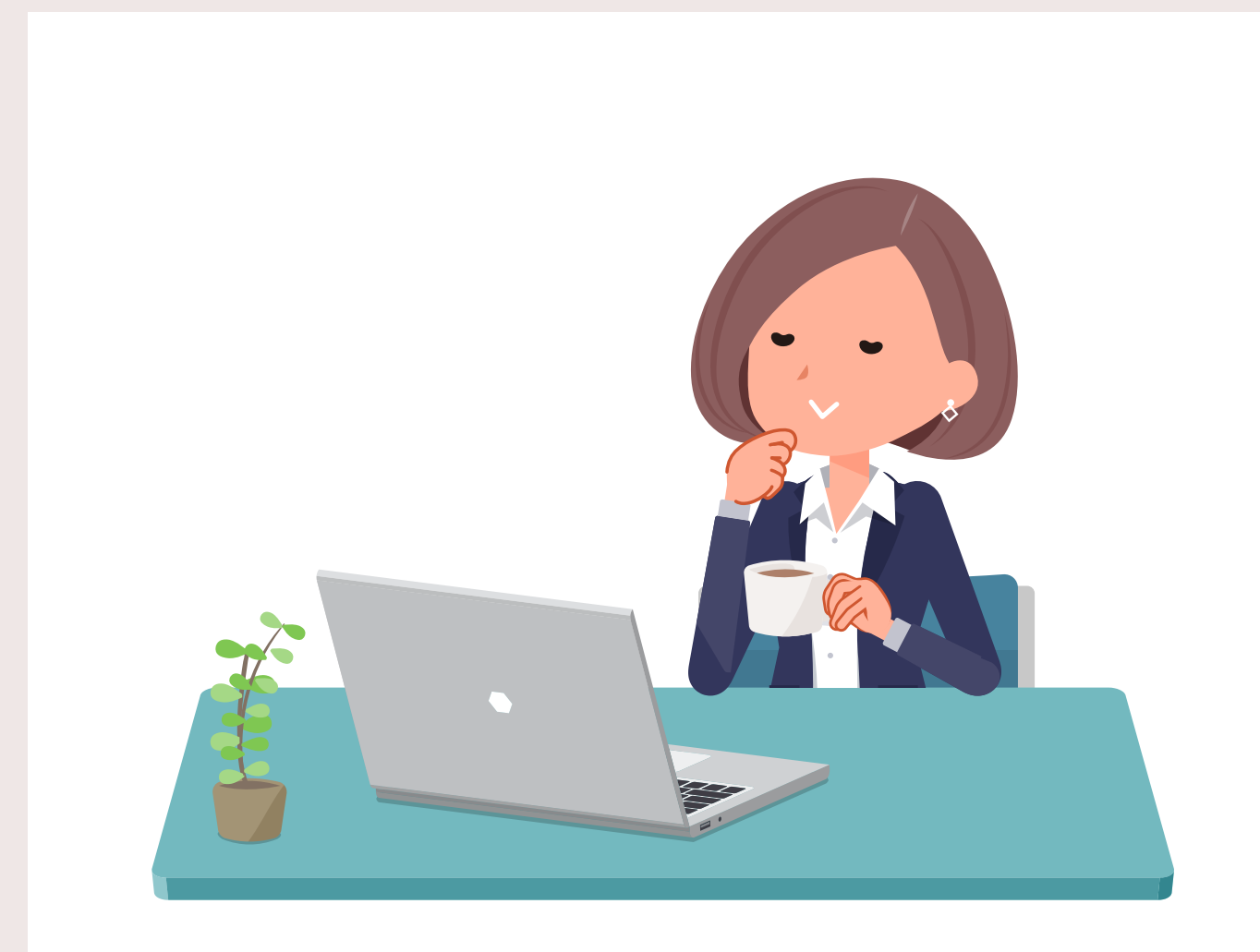
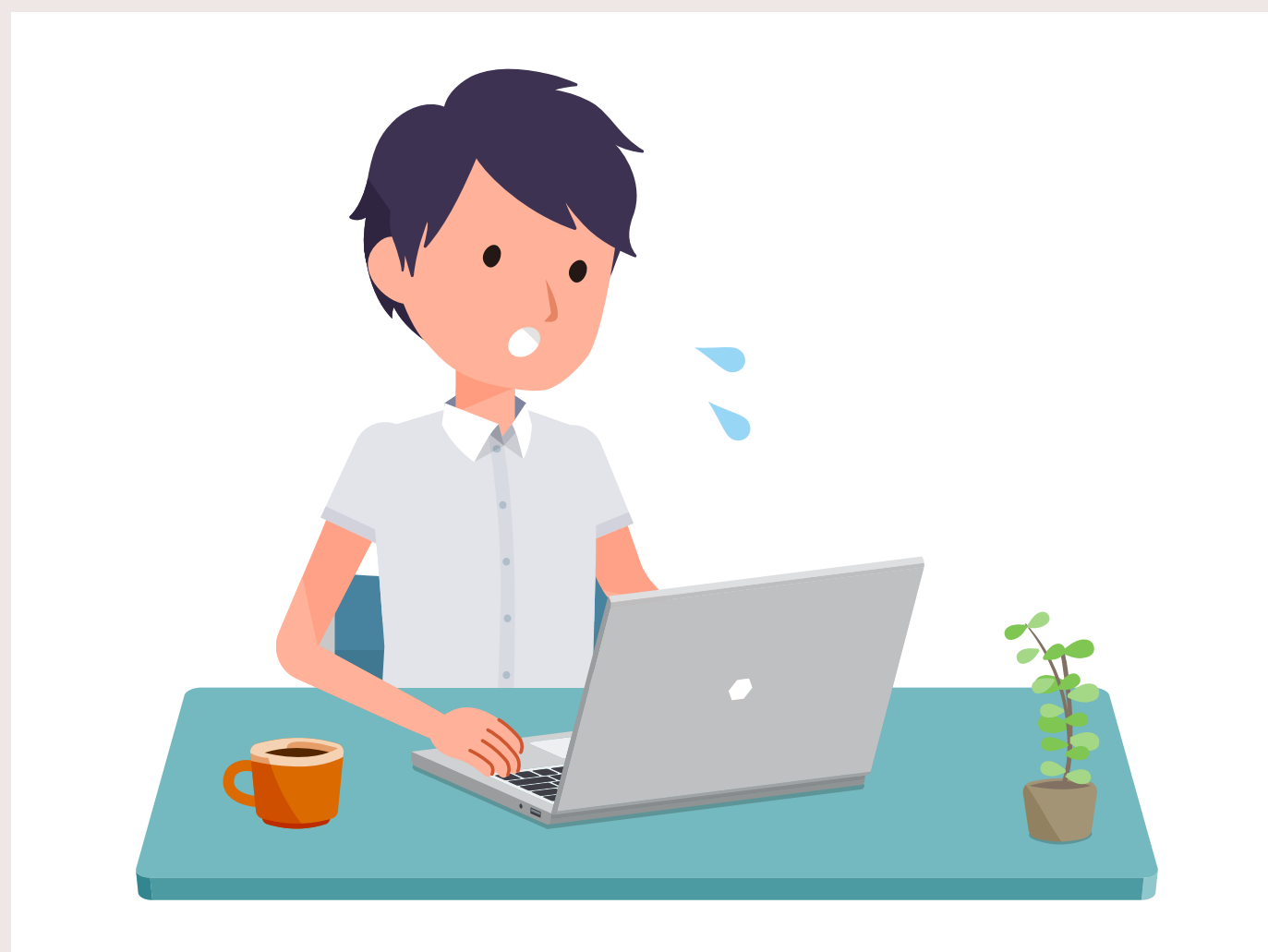
特殊な授業形態の中で、これからどのような影響が出てくるのか、現段階では分からないところもあります。

名古屋大学には80名程の障害学生がいますが、潜在的な障害学生数はそれよりももっと多いと考えられます。こうした学生に今後新たな問題が生じることは十分考えられることです。この資料は、そうした予想しうる問題の発生を抑え、あるいはあるいはそれに対応するための教材作成、授業実施の方法をご提案するものです。

どの先生にもお読みいただき、授業準備の参考にして  
いただけますと幸いです。

ご質問などありましたら、いつでもお寄せください。

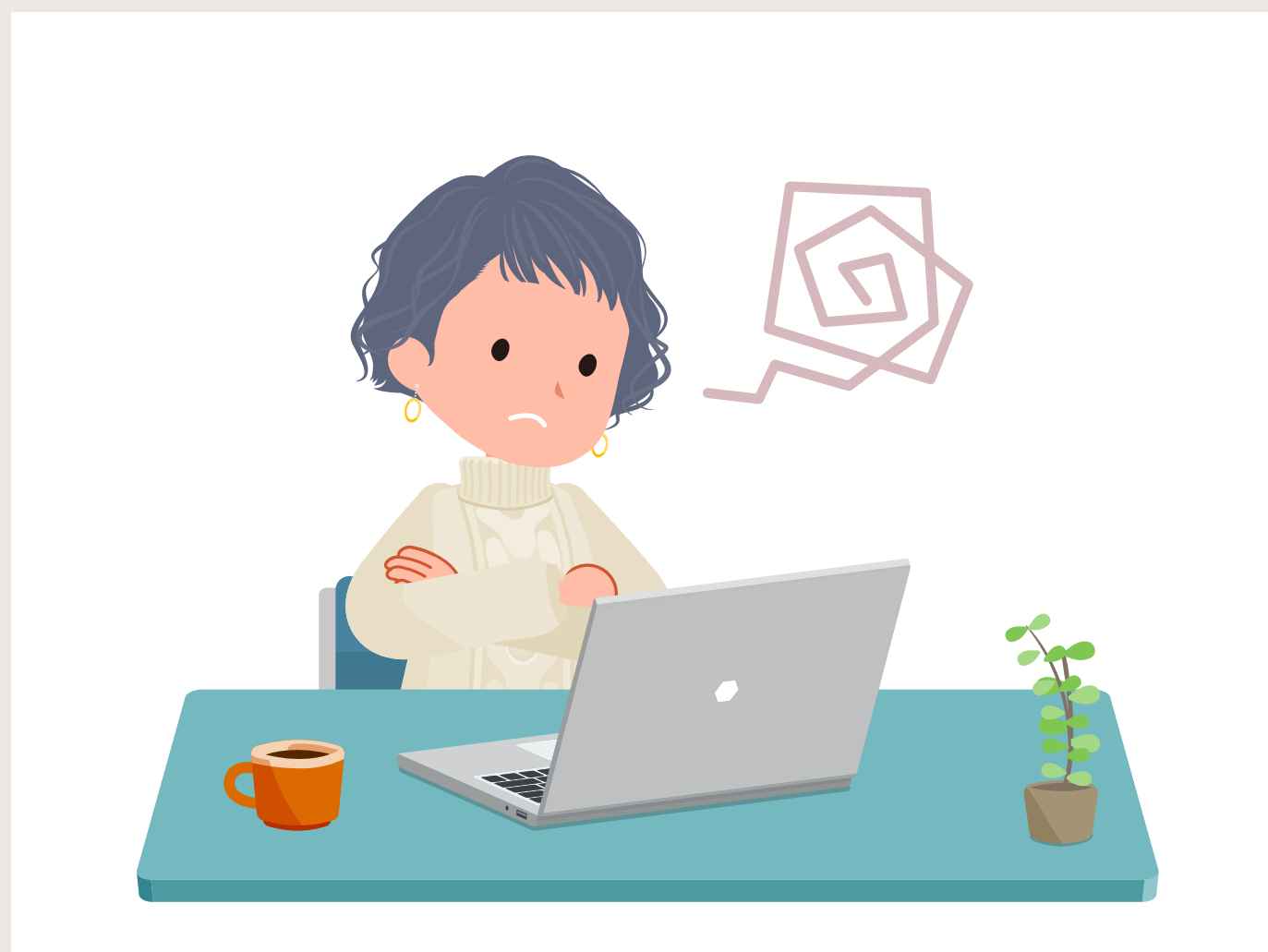
# 機器の操作



受講に必要なパソコン、スマホ、ソフトウェアの使い方について、言葉や文字情報をもとに操作を行うことが苦手な学生がいます。また身体の障害等のために、機器の操作がゆっくりの学生もいます。教員にとっても不慣れな状況とは思いますが、丁寧な関わりを心がけていただけるようお願いいたします。

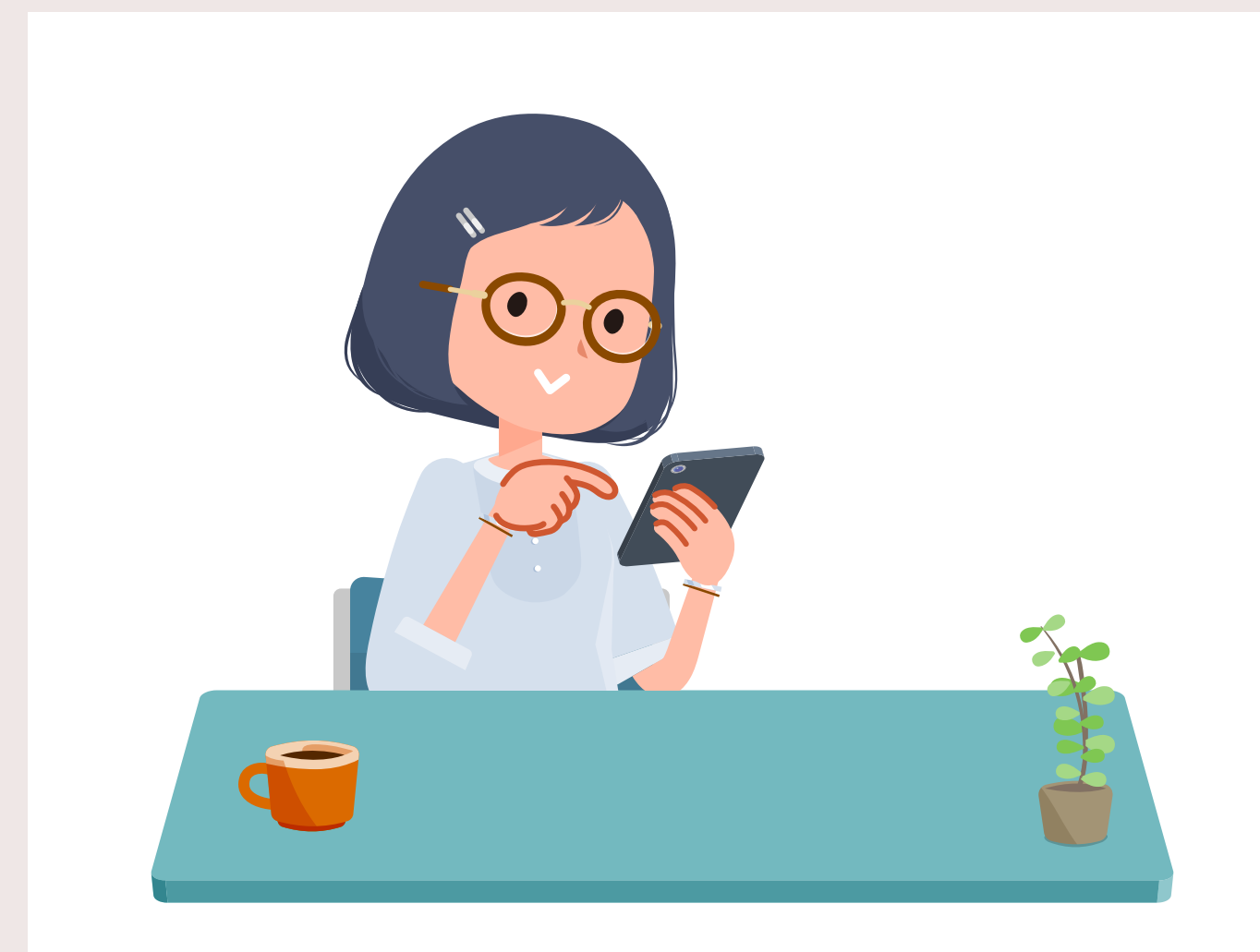
それでも、対応の難しそうな学生がいればご相談ください。

# スライドの作成（1）



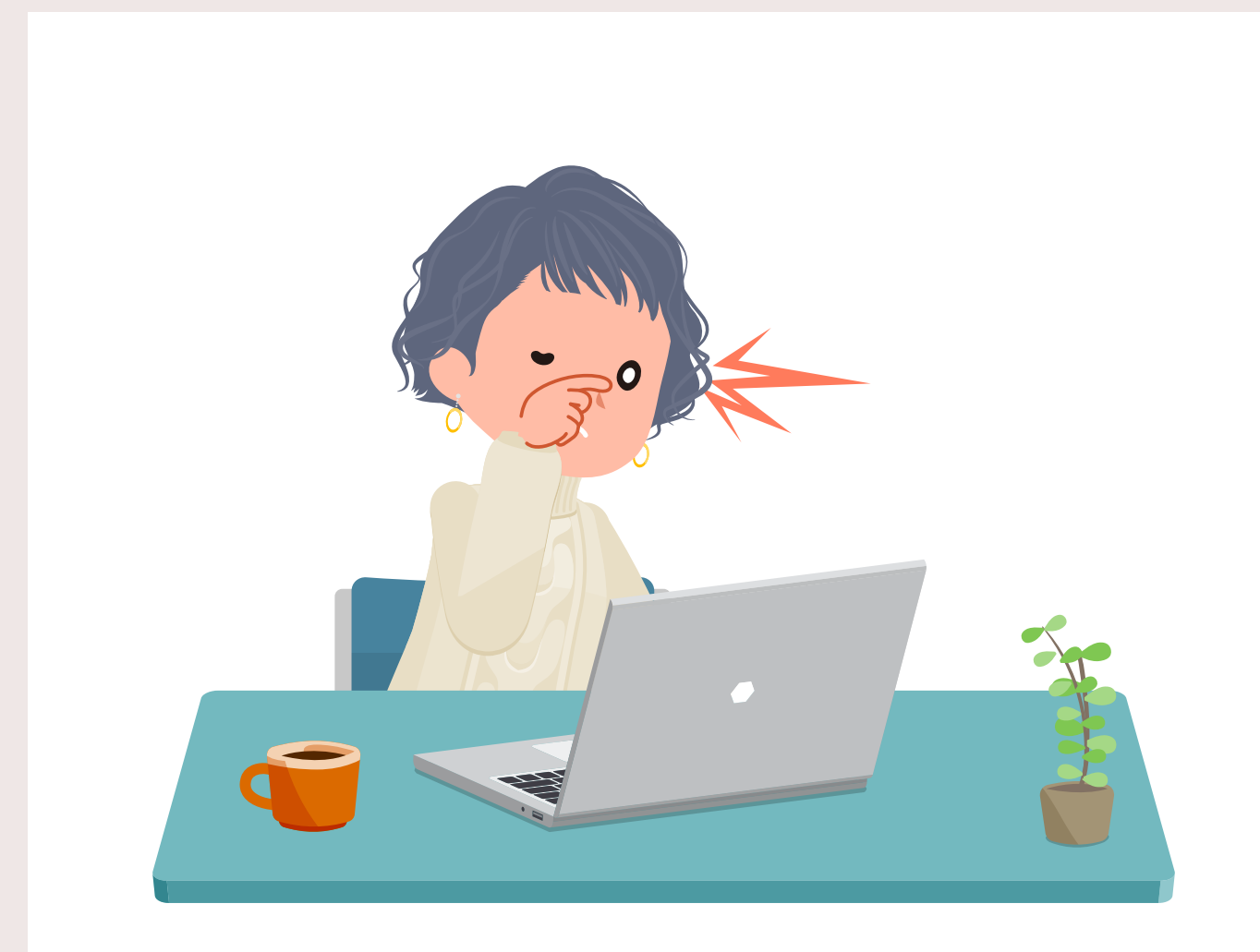
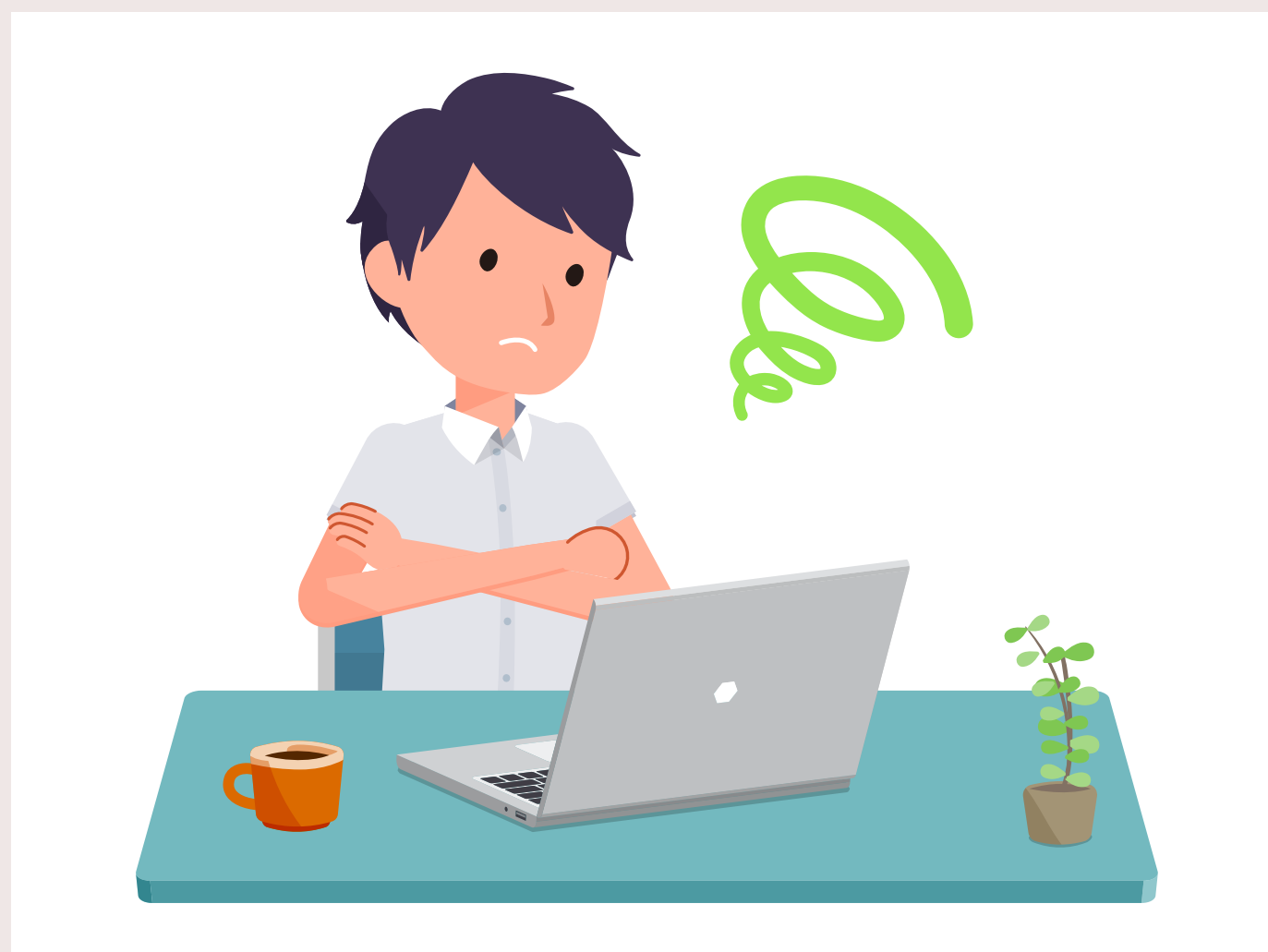
色覚の問題を持つ学生のために、配色の工夫が役立ちます。当センターウェブサイトにて配色やスライド作成についてのリンクがあります。

<http://gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/osd/resource.html>



学生はスマホを使用している可能性があります。視覚の問題のある学生について、スライドの文字は大きめに作成していただくと助けになると思います。

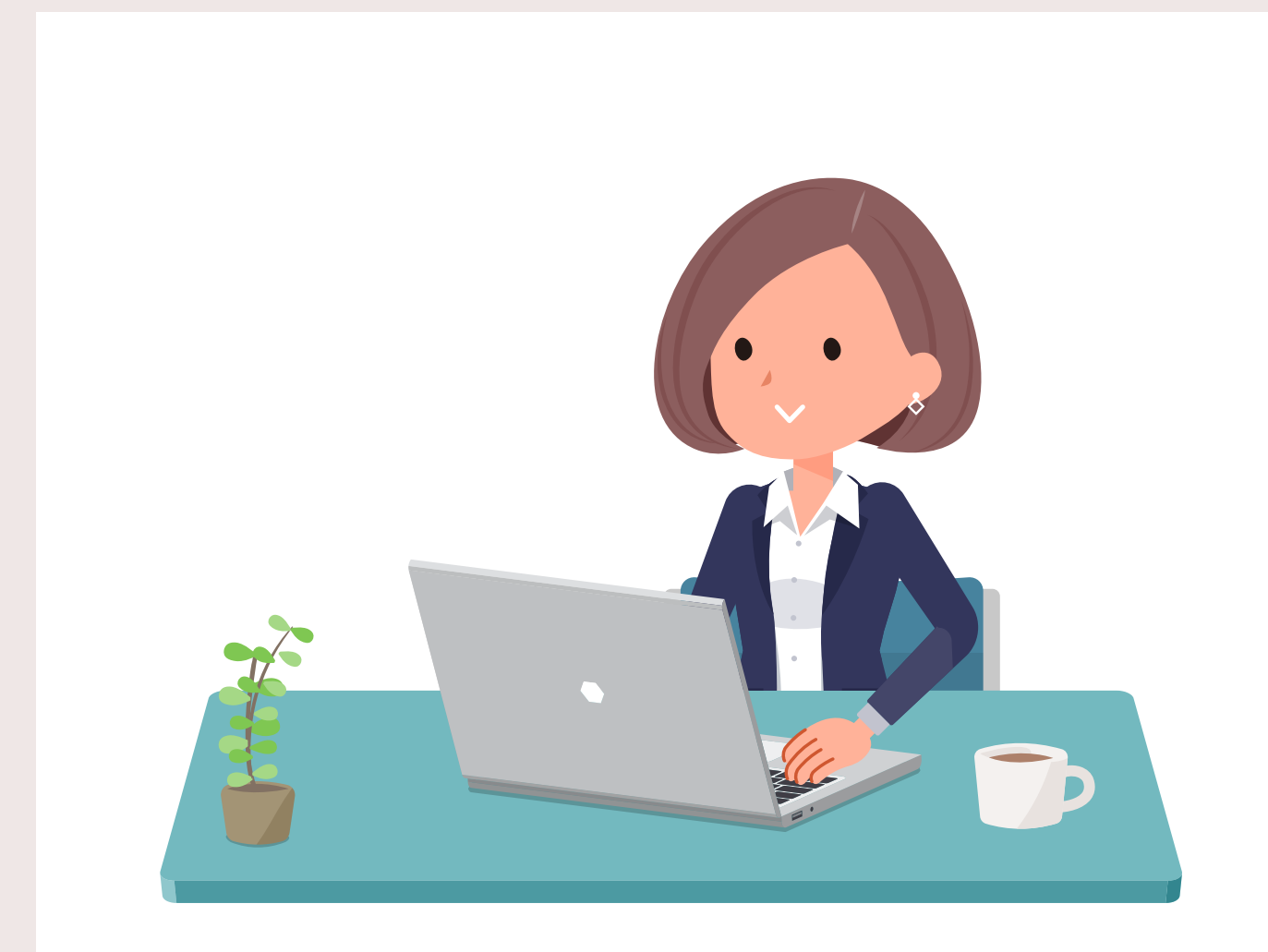
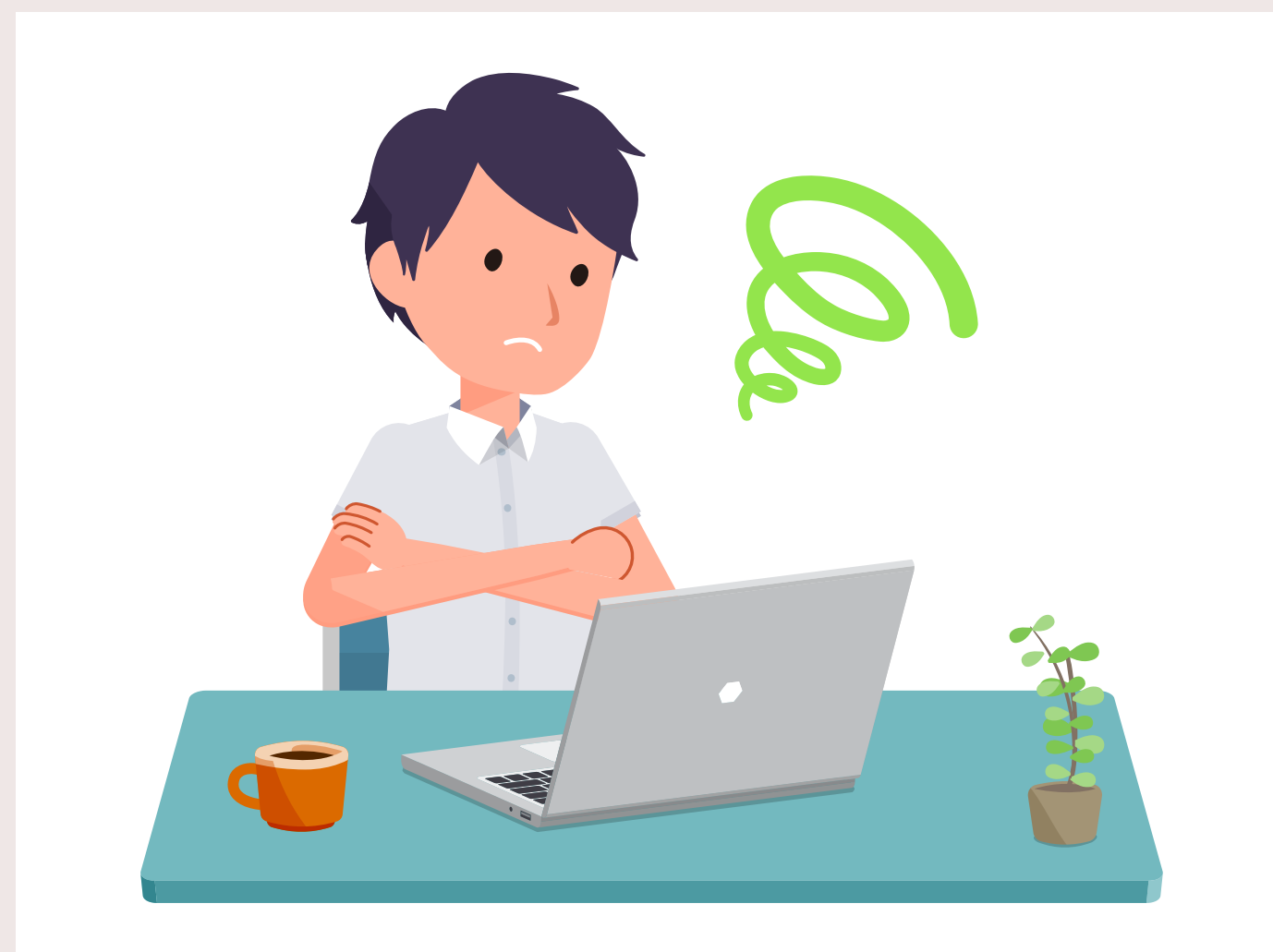
## スライドの作成（2）



聞き取りに困難がある学生はスライドの文字情報を多くした方が良い一方、視覚の問題がある学生は文字が増えると見にくい、という矛盾した問題があります。

現段階では各教員のやり方で作成しながら、問題が生じていないかのモニタリングができると良いかもしれません。問題が出てくれば、可能な対応を取るか（たとえば補足の資料を作るなど）、もしくはご相談ください。

# 話し方（1）



リアルタイムの遠隔授業では回線状態で音声のスピードが上下します。また録画、録音等によるものでも視聴環境によって聞こえにくくなります。これらは聞き取りに困難のある学生にとって問題を生じさせます。通常の授業のように学生の様子を確認しながら話すこともできません。言葉をはっきりと発音し、ゆっくり話していただくことで、こうした問題をある程度は回避できます。



## 話し方（2）



聴覚に障害を抱えている学生は、話している相手の口の動きで言葉を判断していることがあります。また、音声だけで授業を実施し、あるいは録音ファイルを配布している場合も、マスク越しでは音がこもることが考えられます。

可能な限りマスクを外して実施、もしくはマスクを外せる環境で録画、録音をしていただけると助けになると思います。

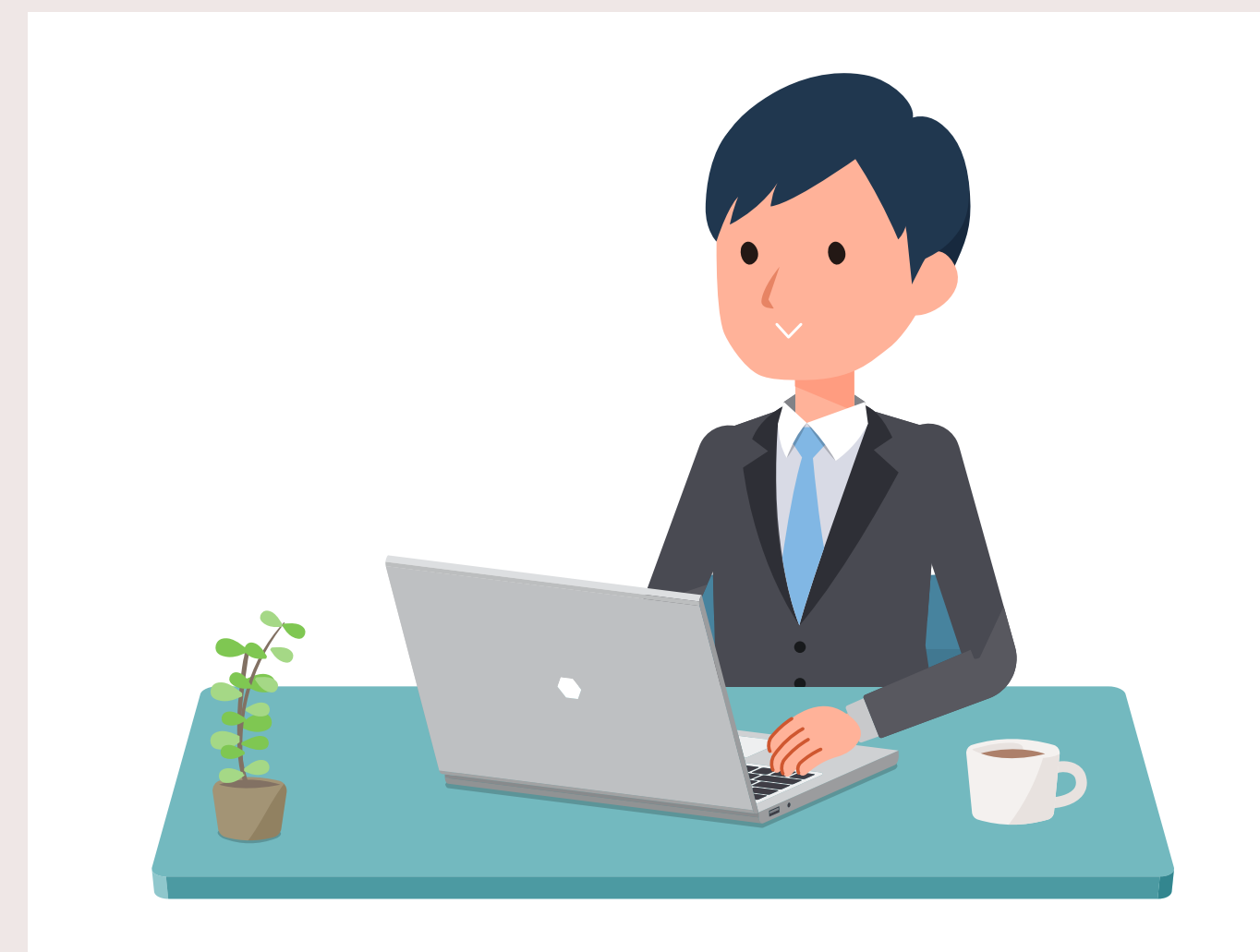
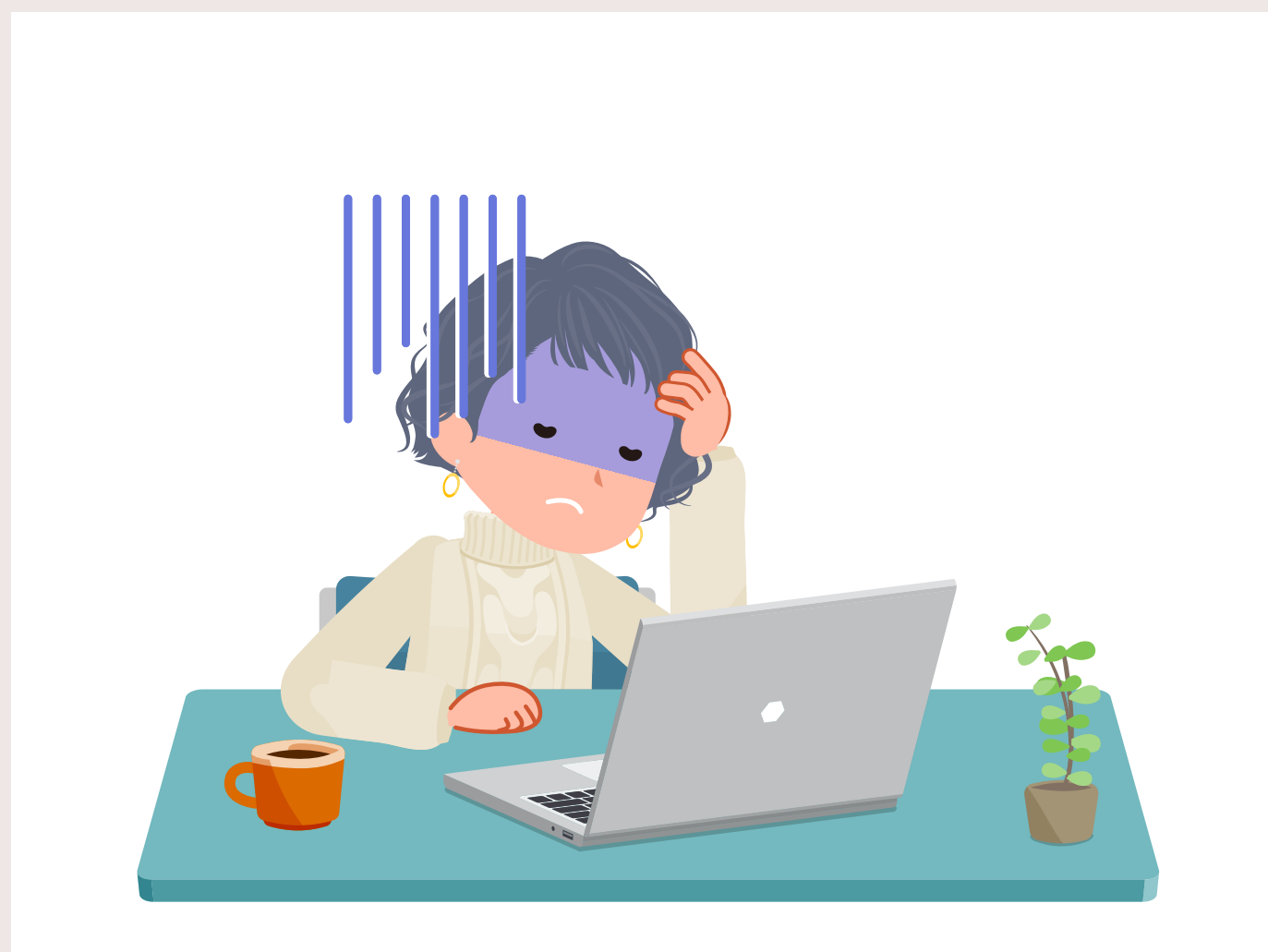
## 話し方（3）



スライドを使用しない音声のみの講義の場合、聴覚的な情報処理に問題のある学生は聞き取りに困難を覚えます。参照できるテキストを使用する、別に補足資料を準備するなどの対応が必要になるかもしれません。

講義内容をリアルタイムでテキスト化する（キャプション）など、支援可能な方法もありますので、ご相談ください。

# 発言の支援（1）



質問や発言を、リアルタイムに、口頭もしくはチャット等で求める場合、慣れないことであるために、スピードが遅くなる学生、もしくはどうしたらいいか分からずに固まる学生が出てくるかもしれません。グループでのディスカッションを取れ入れる際にも、同様のことは起こりえます。

発言は、ゆっくりで良いことを伝えてあげてください。

## 発言の支援（2）

ゆっくりで良いことを伝えても、緊張が取れない時には、以下のようなやり方で「慣れ」を作ると助けになるかもしれません。

（0）今から「質問すること」に慣れる準備をする旨を伝えてください

（1）何でも良いので言葉や文字を発してもらってください（たとえば「こんにちは」など）

（2）簡単な質問を行ない、回答を求めてください（たとえば今日の日付など）

（3）授業に沿った簡単な質問を行ない、その質問を学生にくり返させてください

（4）どのような質問でも良いので質問をさせてください

この手続きを学生同士でやってもらっても良いかもしれません。

それでも難しければ代替的な手段（事後的に質問を受け付ける、小レポートの提出とするなど）をご検討ください。また、必要があればご相談ください。

# 指示の出し方

相手が見えない状態でのコミュニケーションとなりますので、指示が伝わりやすいよう、具体的に伝えることが理解を助けます。たとえば、

- 「スライドを見てください」 → 「○番目（○○というタイトルの、など）のスライドを見てください」
- スライドの中の特定の個所を指す場合 → 「スライドの中の○番目の項目（○○という記述、図1、左の図、赤い箇所など）」
- 「（テキストの）次のページ」 → 「テキストの○ページ」
- 提出期限の指定 → 「○月○日○曜日」

また、スマホやパソコンを操作する必要がある場合に、身体的、もしくは心理的な理由によって動作がゆっくりになる学生もいますので、その点もご配慮ください。

これまでの修学上の支援では想定されてこなかった問題がこれから出てくることが考えられます。

アビリティ支援センターとしては、学生との連絡を取りながら、支援体制を整えていきたいと考えておりますが、先生方におかれましても、問題が生じた際には、お気軽にご相談いただくと、私たちにとっても助けになります。

困難な状況ではありますが、より良い修学環境を整えることができるよう、貢献したいと考えております。

**アビリティ支援センター（旧 障害学生支援室）**

<http://gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp/osd/>  
[osd@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp](mailto:osd@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp)

\* リモートワークのためメールでのご連絡をお願いします。

状況に応じて、ビデオ会議システムを使用した相談も行っています。

このファイルのアップデートはウェブサイトに掲載していきます。